

3. この脚本で、考えてみたかったこと

- ①セックスってなんだろう。
 快樂？ コミュニケーション？ こづくり？ その他？
- ②セックスの話がきらいな人もいます。どうしてでしょう。なにか理由があるのでしょうか？
 「良識」の問題？ 小さいときに「いやらしいこと」ってふきこまれたから？ そもそもセックスに関心がないから？ もっと、ありますか？
 さて、そんな「いやだ」という人の気持ちを尊重するとしたら、どんな方法があるでしょう。
- ③ペニスの大きさや、勃起の持続時間に、こだわる男の子がおおいのは、なぜでしょう。
 セックスパートナーが、それをのぞむの？ AVの影響！？
- ④「ホモ」って言葉をどう思いますか？
 周囲に「同性愛」を笑いのネタにするような発言があったら、どうしましょう。
- ⑤「男の子」として生活しているけど、ペニスがない人も、います。どんな場合か、説明できますか？
- ⑥女の子が、セックスの話をたんと話するのは、いやですか？ 女の子は、「はずかしがる」べき！？

4. わたしからのメッセージ

「あれだけの会話に、考えることがこんなに！？」と思われたでしょうか？ でも、もっとつっこんで「そもそも『女』『男』って、なんだろう」とか、「この会話って『性別役割』にそってるよね」とか、話はひろがっていくと思います。きっと、みなさんは、学校や職場でおこっている「シモネタ」にまきこまれたり、「性経験」をたずねられたり。「あ、のとき、むかついた！」「くやしかった！」そんな思いも、もたれてきたことでしょう。そのためにも、ぜひ！ 「こんどはこうかわす！」「こういってみよう」シミュレーション、してみてください！ 「セックス」についていろいろ考えていると、自分なりのこたえもみつかっていくと思います。

さて、この脚本には「タブー」とされている言葉もでてきました。でも…私は、それらを「絶対使うな！」「禁止しろ！」ってというのは、ちょっとちがうんじゃないかなって思っています。それよりも「その話やだな」「その言葉、ひくわ～」と言う「勇気」や、「そうなの？」「どんなふうに？」と率直に返す「好奇心」をもっているってことが重要。だって、ふみこんでみないとわからないこと、いっぱいありますから。そのためにも私たちみんなで、そんな話ができる「場」「雰囲気」をつくっていきましょう。この関西クィア映画祭の「場」のように。それが、結果的には、「セクシュアル・マイノリティ」だけじゃなく「マジョリティ」のみなさんも、生きやすい世の中になる「秘訣」だと思っています。

へこたれずに、「戦略」をいっぱい考えていきましょうね。

<読んでみてください！>

安部輝夫『セックスレスの精神医学』（ちくま新書、2004年）…抑圧しすぎても大変！？

ジェリー&メアリー・ニューボート『アスペルガー症候群—思春期からの愛と性』（クリエイツかも川、2010年）…アスペルガーでなくたって、なんだか恋愛が苦手な人に。デートの誘い方から、セックスの方法まで、具体的にのってます。

長谷川まり子『ガン患者のセックス』（光文社、2010年）…恋人が病気に。でも、セックスしたい！ でも、本人にもお医者さんにも聞けない！ そんな悩みをもったことのあるたくさんの人に取材しています。

北原みのり『アンアンのセックスできれいになれた？』（朝日新聞出版、2011年）…『アンアン』のセックス観はこの40年でどうかわった？ 『アンアン』世代に私は、共感をもってよみました！

北村邦夫・JUNE 編集部『ティーンズ・ボディブック』（扶桑社、2003年）…異性愛者むけだけど、避妊・性感染症予防については、この本がおすすめ（伊藤理佐の絵が笑えます！）。が…いまやアマゾンの中古品でしか入手できません…。

遠藤和士・ひびのまこと『していますか？同性愛ってなに？ 一問一答』（解放出版社、2004年）…同性愛以外のこともいろいろ、参考になります！

すぎむらなおり『エッチのまわりにあるもの—保健室の社会学』（解放出版社、2011年）…私がであった生徒たちとのやりとりをもとに。いろいろ考えさせられました。「セクシュアリティ」基礎知識も簡単に説明してあります（宣伝（笑））。